



### Contents

- 活動報告  
オープンキャンパスにて一時託児を実施  
「理系で広がる私の未来2019」シンポジウムにてブース出展  
第11回けいはんな女性研究者ネットワーク茶話会開催
- イクボスインタビュー  
男女共同参画室室長・理事・事務局長 渡邊五郎  
男女共同参画担当学長補佐・情報領域教授 井上美智子
- プラスα保育の案内
- 一時的休養等のための女性休憩室の案内
- 本学の男女共同参画に関するデータ

# News Letter

ニュースレター

## 活動報告 2019年3月～2019年6月

2019年5月18日

### オープンキャンパスにて一時託児を実施

オープンキャンパスの運営に携わる教職員・学生を対象に、大学敷地内にある一時託児室「託児室せんたん」で無料託児サービスを実施しました。お預かりした6名の子どもたちは、工作をしたり、託児室にあるおもちゃや電車のおもちゃで遊んだりして、楽しく過ごしました。



また、来場者に配布されるパンフレット「NAISTの歩き方」に本学の女子大学院生の研究生活を紹介するwebページの案内を掲載していただきました。



2019年6月8日

### 「理系で広がる私の未来2019」シンポジウムにてブース出展

科学技術振興機構東京本部別館(東京都)にて開催された「進路で人生どう変わる? 理系で広がる私の未来2019」(主催:内閣府、文部科学省、科学技術振興機構)に参加しました。

本イベントは、理工系分野に興味がある女子中高生・女子学生が、将来の自分をイメージして進路選択(チャレンジ)することを応援する「理工チャレンジ(リコチャレ)」という取組の一環で、女子中高生とその保護者・教員を対象に開催されました。

本学はブース出展をおこない、大学紹介のポスター展示のほか、女子大学院生の研究生生活紹介や大学案内等の資料を配布しました。本イベントを通して、たくさんの高校生と保護者に、本学の研究環境について知っていただくことができました。



2019年6月6日

### 第11回けいはんな女性研究者ネットワーク茶話会開催

2019年6月6日(木)18時から19時半まで、けいはんなプラザにて「けいはんな女性研究者ネットワーク」の茶話会が開催されました。

今回は大人12名、子ども4名が集まりました。同志社女子大学、オムロン、学研都市推進機構等に所属する世話人たち、日本電産やパナソニックの技術者、奈良先端大の教職員などが集い、それぞれのグループで自己紹介をしたり、出張時保育支援などの両立支援制度や配偶者の転勤帯同に伴う休職制度等について情報交換をしました。



# Interview

管理職の方々に、男女ともに安心して働くことのできる職場づくりに向けた考えや、これからの取り組みについてお話をいただきました。

男女共同参画室室長・理事・事務局長  
渡邊 五郎

## 性別を問わず優秀な人が評価される社会を目指して

男女雇用機会均等法が施行された年(1986年)に東京大学に奉職をしましたが、当時、事務系では女性の採用者は1割もいませんでした。10年程前に文部科学省の国際関係の部署に在籍しましたが、そこでは女性の在籍比率は高かったですし、管理職に占める割合も一定数ありました。さらに育児休業を取得した方のほとんどが職場復帰されていましたし、この30年で社会状況も大きく変わってきたと言えます。しかし、まだ男性中心の社会は残っていますね。性別に関係なく優秀な人が評価され、より高いポストに就く社会には必ずしもなっていないと思いますが、今後は性別を問わず、優秀な人がきちんと評価される社会になっていかなければなりません。



話が多少変わりますが、本当の意味での国際化とは、海外からの学生が「留学生」と呼ばれず「学生」と呼ばれ、国際業務に特化した部署が必要なくなる事だと私は考えますが、現実には国際部もまだまだ必要です。同じような事が男女共同参画でも言え、男女共同参画室もまだまだ必要です。また本学は、女性の教員比率は高くないものの、さまざまな国の教員と学生が在籍しており、多様性はあると言えます。今後は、障害者やセクシャルマイノリティの方の配慮も、男女共同参画室の業務での課題になると考えています。

### イクボスとしての取り組み

## 管理職は何事にもアンコンシャス・バイアスを意識して取り組もう

男女共同参画について考えなくても、それが当たり前の世界が理想ですよ。でもなかなかそうはならない。だから管理職の立場にある人は、なぜ男女共同参画が必要かを今一度、きちんと理解する必要があるかと思います。未だに女性が参画することでパフォーマンスが落ちると考えている人がいますが、少子高齢化社会のいま、どこに潜在的な労働力があるかという、それは女性なのです。そして、女性が十分に能力を発揮できる環境を整え、女性のパフォーマンスをさらに引き出す事が求められているのです。管理職はその認識を常に持って、事に当たらなければなりません。

昨年度の本学の男女共同参画セミナーのテーマ「アンコンシャス・バイアス(無意識のバイアス)」には、なるほどと納得させられました。「子育ては女性がするもの」といった認識もそうですが、私たちには知らず知らずのうちの思い込みというものがある。これに気づかないといけない。特に管理職は、何事にも常に自らの置かれている状況を認識した上で、他の人からの声に対しても、バイアスをかけることなく、虚心坦懐に耳に傾けることが重要かと思います。ひとりひとりが「無意識のバイアス」を認識しないと、男女共同参画に関わる課題はなかなかクリアできません。ただこうした事に慣れていない方も多いかと思います。そうした方々には、ある程度トップダウンで意識付けを行い、取り組みに慣れてもらうことも必要になってくるのではないのでしょうか。



### イクボスとは

職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことを指します。



男女共同参画担当学長補佐・情報科学領域教授  
井上 美智子

## 女性が参入しやすい職場であることが 優秀な人材確保につながる

約10年前になりますが、当時何人かいた女性の教員達が、子育てと研究の両立にとっても困っていて、大学として何とかしなければと文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に申請しました。採択されてからは、様々な施策を立ち上げ、特に妊娠・子育て中の研究者に研究支援員を配置するアカデミックアシスタント制度は、他大学の先駆けになりました。事業終了後も参画室の取組を継続し、教職員の男女共同参画への意識と理解は年々向上しているといえるのではないのでしょうか。



かつて男女共同参画の目的は「困っている人を助ける」でしたが、最近は「女性が参入しやすい職場にしないと優秀な人材を確保できない」に変わってきたと思います。優秀な人材の確保のためには、女性限定公募も必要ですね。アファーマティブ・アクション※という概念があるように、マイノリティには手厚い対応が求められるからです。現在、女性比率が低いことが参入しにくい要因になっていますので、まずは少しでも比率を上げることができればと思います。優秀な人材を活かしきれないと日本の研究力が衰退していきますので、女性比率の向上は国立大学の一つとしても喫緊の課題であると考えます。

### イクボスとしての取り組み

## 研究職が魅力ある職種であるために

私の子どもたちが保育園や学童に通っていた頃は、毎日、18時までのお迎えに走り、帰宅後夕飯をつくり、子どもたちを寝かせ、21時から仕事を再開していました。当時所属していた研究室の教授は、私が子どもの発熱で急に休むことになっても何もおっしゃらず、働きやすかったです。情報系の分野は研究場所の制限があまりないこともあって、他で仕事ができれば問題ありませんでした。子どものお迎えのために帰ることは男性でも女性でも当然だと思いますし、仕事があるから子育てができないということもないと考えています。

現在の私の研究室の教員は、放っておいたらずっと仕事をしていますから、努めて「帰りましょう」と言うようにしています。これからの研究職は、大変な量の仕事をしてくれる彼らのような人たちの熱意に甘えず、他の職種と競っていかねばなりません。大学によい人材が集まるよう、働きやすい環境の整備に努めることは重要であると思います。



大学のイクボスのインタビューページはこちら  
<http://www.naist.jp/gender/contents/gender/ikuboss/>

※アファーマティブ・アクション(ポジティブ・アクション)

社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で特別の機会を提供することなどにより、実質的な機会均等を実現することを目的として講じる暫定的な措置  
[内閣府HPより]

# Information

男女共同参画室からのお知らせ

男女共同参画室は、利用者の活躍に支えられ、本学構成員の仕事と生活の両立を支援する各種制度の充実に、多角的に取り組んでいます。

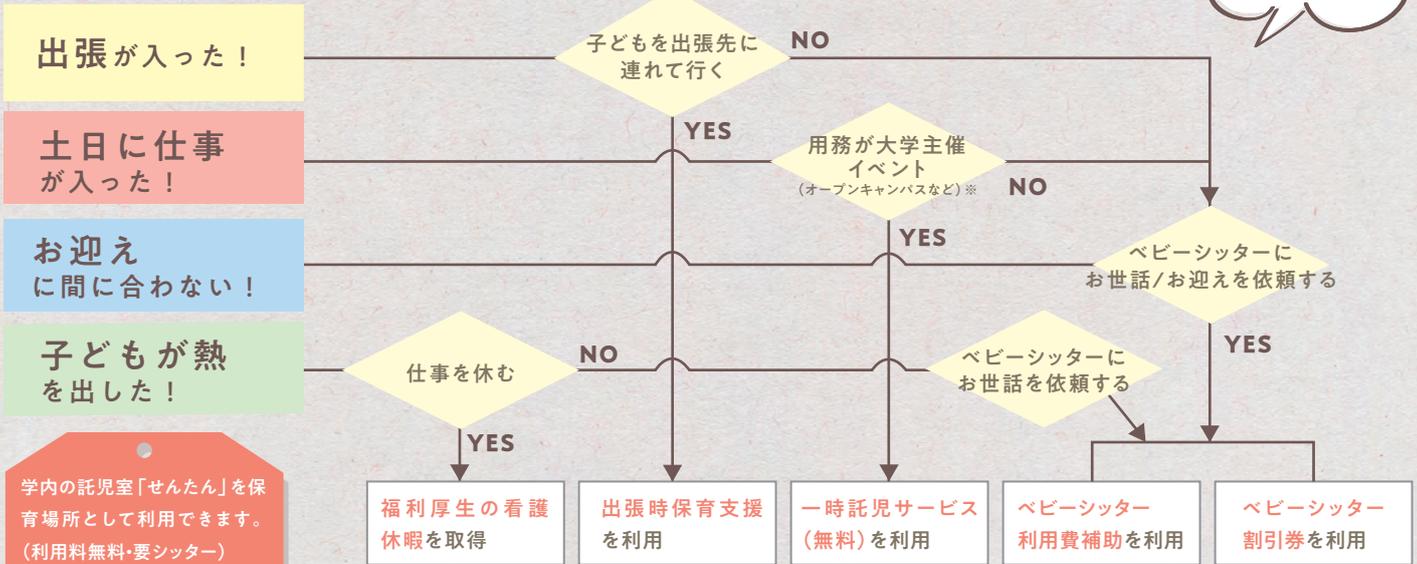
## プラスα保育のご案内 Extended Childcare

2009年から実施している両立支援「プラスα保育」は、夜間や休日、病気回復時など、通常の保育サービス（保育所・学童保育）ではカバーできない部分の育児支援を行っています。ぜひご利用ください。

We offer childcare outside of standard services with options including temporary childcare for NAIST events, late night and holiday childcare, childcare when parent(s) are ill, and other services. Please check our website for more information.

[http://www.naist.jp/gender/contents/support/supportchild\\_care\\_plus/](http://www.naist.jp/gender/contents/support/supportchild_care_plus/)

教員だけでなく、常勤職員、有期契約職員の方々にもご利用いただいています



学内の託児室「せんたん」を保育場所として利用できます。(利用料無料・要シッター)

\*用務が研究領域の主催するセミナー等の場合、一時託児サービス設置にかかる費用を研究領域と男女共同参画室で折半できます。

☆各自治体の育児や介護に関する情報についてもご相談ください。

## 一時的休養等のための女性休憩室のご案内 Lounge rooms for women

有期契約職員、学生の方々もご利用いただけます

各領域棟に体調が優れない等の理由での一時的休養（月経期、妊娠期、出産後など）、搾乳・授乳等のための休憩室を設置しています。利用を希望される方は、申請フォームより登録申請をしてください。

We have set up lounge rooms that female staff and students can use when tired or not feeling well due to pregnancy, etc., or when breastfeeding or pumping. Please fill in the application form below and submit it for use.



利用申請フォーム the application form



2019年5月現在

数字で見る

## 男女共同参画

研究領域別の女性教員率

情報4.5%、バイオ13.9%、物質10.9%  
その他7.7%

本学の女性教員率 10.3%



【編集・発行】  
奈良先端科学技術大学院大学  
男女共同参画室

〒630-0192  
奈良県生駒市高山町8916-5(けいはんな学研都市)事務局棟1階  
TEL:0743-72-5137/5138 FAX:0743-72-6244  
Email:sankaku-jimu@ad.naist.jp  
URL:<http://www.naist.jp/gender/>